

あい♡愛だより

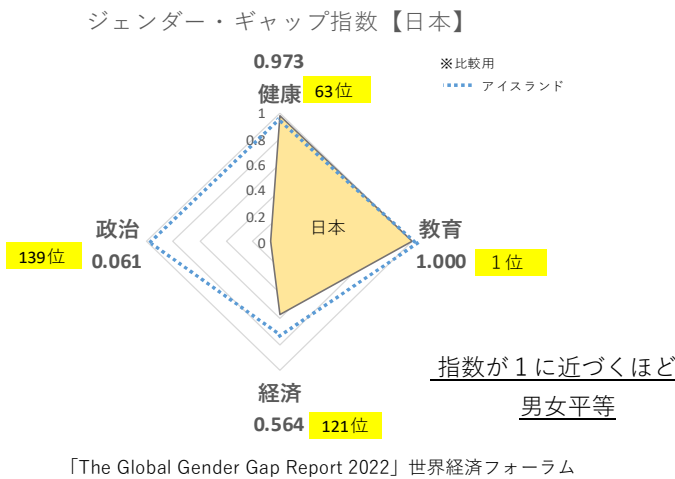
編集・発行 名護市地域経済部地域力推進課
 沖縄県名護市港二丁目1番1号

41号

日本のジェンダー・ギャップ指数0.650先進国で最低レベル

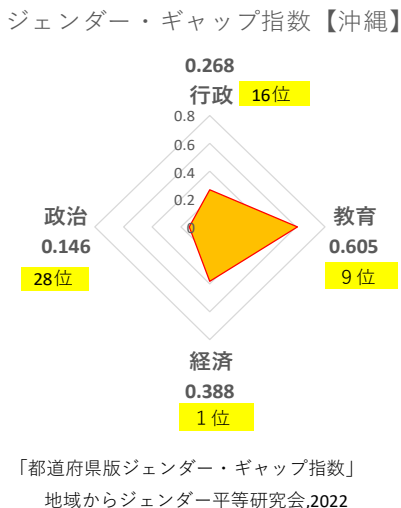
世界経済フォーラムが2022年7月、「The Global Gender Gap Report 2022」を公表し、その中で、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表しました。2022年の日本の総合スコアは0.650、順位は146か国中116位（前は156か国中120位）でした。

前回と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果になりました。



順位	国名	値	前年値
1	アイスランド	0.908	0.892
2	フィンランド	0.860	0.861
3	ノルウェー	0.845	0.849
10	ドイツ	0.801	0.796
15	フランス	0.791	0.784
22	英国	0.780	0.775
25	カナダ	0.772	0.772
27	米国	0.769	0.763
63	イタリア	0.720	0.721
79	タイ	0.709	0.710
83	ベトナム	0.705	0.701
92	インドネシア	0.697	0.688
99	韓国	0.689	0.687
102	中国	0.682	0.682
116	日本	0.650	0.656

沖縄のジェンダー・ギャップ指数は？



では、日本国内で沖縄の「立ち位置」はどこなのでしょう。上智大の研究者が試算した都道府県版ジェンダー・ギャップ指数をみると、沖縄は女性社長が多いことや非正規などの賃金の男女格差が小さいことから『経済』で1位となりました。しかし、共働き家庭の家事・育児などに使用する時間の男女格差は31位と低く、女性の負担が大きくなっています。『教育』は四年生大学への進学率や校長ら管理職の男女比などから9位となりました。『行政』は、県職員の女性採用割合（大卒程度）や市町村の防災会議の男女比が低かったことが要因で16位でした。4つの分野で最も順位が低かったのは『政治』で、女性の市町村議会議員が少ないことなどが影響し、28位と低迷しました。

名護市では「あい・愛プラン」を基に、男女共同参画を実現するために取り組んでいきます。



🎀 AV出演被害防止・救済法が施行されました

出演契約を無力化するルールが新しくできました。(個人などが作る場合も対象です。)

前回のあい・愛だより(40号)では、性犯罪・性暴力についてお伝えしました。今回は、令和4年6月15日に成立し、6月23日に施行された「AV出演被害防止・救済法」についてお伝えします。

「モデル・アイドルになりませんか」と声を掛けられたり、高収入のアルバイトに応募したことをきっかけに、アダルトビデオ(AV)出演被害にあう事例が生じています。



15歳～39歳の女性に対する調査では、4人に1人がモデル・アイドルなどの勧誘を受けた・応募したことがあり、勧誘を受けた・応募したことのあつる人のうち7人に1人が、聞いていない・同意していない性的な行為などの撮影を要求されたことがあるという結果が出ており、AV出演被害の問題は身近な問題であることが分かります。

AV出演被害の問題は、被害者の心身や私生活に将来にわたって悪影響を与える重大な人権侵害です。この法律は、性をめぐる個人の尊厳を守るための法律であり、出演者の性別・年齢を問わずAV出演契約を無力化するルールやAVの公表の差し止め請求、事業者への罰則を定めるものです。

契約の取消・解除や差止請求のやり方などについて、下記の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターで相談できます。

もし被害にあっているのなら、一人で悩まずに相談してください。

内閣府ウェブサイトにおいても、AV出演被害に関する情報を掲載されておりますので、ぜひご覧ください。



■出典：内閣府 男女共同参画局広報誌「共同参画」第158号

性暴力などに関する相談窓口

電話

ワンストップ
支援センター #8891

SNS

キュアタイム
CureTime



若年層の性暴力被害予防月間

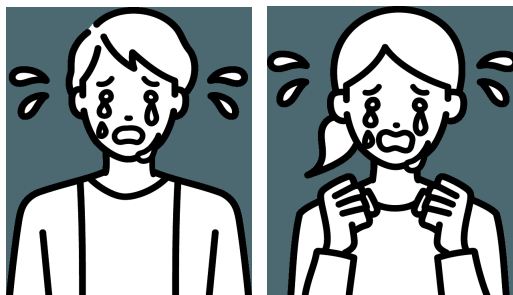
令和5年4月1日～4月30日

毎年入学・進学時期である4月は、「若年層の性暴力被害予防月間」として、広報・啓発を集中的に実施しています。

- AV出演被害
- JKビジネス
- レイプドラッグ※の問題
- 酔わせて性的行為を強要
- SNS利用した性被害
- セクシュアルハラスメント
- 痴漢

等、若年層の様々な性暴力被害の予防啓発や性暴力被害に関する相談先の周知、周りからの声掛けの必要性などの啓発を行うほか、若年層が性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないことの啓発を行います。

※食べ物や飲み物に混ぜて、相手を抵抗できない状態にして性的行為をする目的で使われる睡眠薬等の薬物



こんな被害が起きています

高収入のアルバイトに応募したら、アダルトビデオの撮影だった。

お酒を断れず、飲んでいたら眠くなり、起きたら胸や下半身を触られていた。

SNSで知り合った人に裸の写真を送ってしまった。拡散されたら、と思うと死にたい気持ちになる。

もし性暴力の被害に遭ったら、一人で抱え込まず、ワンストップ支援センター「#8891(はやくワンストップ)」に相談してください。また、周囲に被害に遭った方がいたら、専門の相談機関に相談するように伝えてください。

「女性に対する暴力をなくす運動」パネル展を開催しました!



11月12日～25日の2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」期間に伴い、名護市役所のロビーでパネル展を行いました。

今年度のテーマは昨年度に引き続き「性暴力を、なくそう」でした。「あなたが望まない性的な行為は、性暴力です」というメッセージと、性犯罪・性暴力についての相談窓口の周知を図りました。



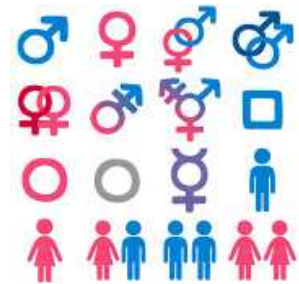
名護市職員対象のLGBTQ+講座を実施しました！



令和5年2月16日（木）、名護市職員対象の男女共同参画講座「イチから知ろう 多様な性 LGBTQ+」を実施しました。

講師に市民団体ていーだあみ共同代表の佐脇広平氏と竹葉梓氏をお迎えし、LGBTQ+に関する知識や業務の上で配慮・見直すべきこと、職場でできるセクシャルマイノリティ（性的少数者）支援についてご講演いただきました。

私たちの性のあり方（セクシャリティ）は、からだの性・こころの性・好きになる性・表現の性の4つの要素の組み合わせでできており、その組み合わせは人それぞれで多様です。性的少数者は、その多くが中学校入学以前に性別違和を持ち始めることや、自殺未遂率が異性愛者の約6倍という調査結果があります。



また、性自認・性的志向に関連した生活上の困難（施設・制度・慣習）と行政で配慮すべき点や見直すべき点の事例を聞き、私たち1人1人が正しい知識を持ち、当事者がカミングアウトする・しないに関わらず、普段から多様性について理解を示し尊重する姿勢を表すことの大切さを学びました。



参加者の感想

事例をまじえたお話はとてもわかりやすく理解が深まりました。法的な整備がないことで、多くの不利益があるということには驚きでした。今後、自分の出来ることから始めて理解の輪づくりにつなげられたらとおもいます。

私の周りにはLGBTQ+の方たちがたくさんいます。今は生きやすい世の中になってきていると思います。早く「同性婚」が認められる沖縄県、日本になってほしいです。

自分が日頃特に意識していないトイレの使用であったり、パートナーへの呼称であったり、何気ない日常生活の中にも生きづらさを感じている人もいるということ、今回の講座を通して、まずは知ることが出来て良かったです。どのような性であっても、相手の意思や選択を理解しようとする姿勢がその人自身を尊重することにもつながるのかな、と思いました。

市民向けの講座にして、広く理解してもらう機会を増やして欲しい。

ていーだあみ
ホームページはこちら

<https://tiidaami.org/>



あい♡愛だより
バックナンバー

